

# 第9期札幌市図書館協議会

## 第2回会議

### 議 事 録

日 時：2023年2月21日（火）午後2時開会  
場 所：中央図書館 3階 講堂

## 1. 開 会

●事務局（中澤運営企画課長） 定刻となりましたので、ただいまから第9期札幌市図書館協議会第2回会議を開催いたします。

本日は、お忙しい中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。

私は、事務局を担当する中央図書館運営企画課長の中澤と申します。どうぞよろしくお願いたします。

本日の出席者は9名でございますが、今野委員、野田委員はまだいらっしゃっておりません。欠席する旨のご連絡をいただいているのは、木村委員の1名でございます。

出席者は現時点で7名となりますので、札幌市図書館条例施行規則第27条第2項に規定するとおり、委員の過半数を超えておりますので、会議は成立しております。

まず、議事に先立ちまして、本日の資料について確認させていただきます。

既に送付させていただいている資料として、次第、図書館の在り方検討というカラーの1枚もの、次に、令和4年度札幌市の図書館の「将来の在り方」についての調査研究業務というA3判のもの、札幌市の図書館の「将来の在り方」に係る市民アンケート1次集計結果、札幌市の図書館の在り方に関するニーズ調査の結果について、図書（マンガ）を核としたライブラリー、ミュージアム及びビジネスの展開に関する可能性調査の仕様書です。そのほかに、追加資料として、座席表と令和4年度地区図書館企画提案型事業の取組を皆様の机上にお配りしております。

不足している資料がございましたらお知らせください。

また、議事録作成のため、録音の必要がございますので、お手数ですが、ご発言の際にはマイクを必ずご使用いただきますようお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、中央図書館長の矢萩よりご挨拶を申し上げます。

●矢萩中央図書館長 中央図書館長の矢萩でございます。

本日は、お寒い中、ご出席をいただきまして、ありがとうございます。

今期2度目の図書館協議会となります。

前回は、昨年6月に開催し、直前に策定しましたさっぽろ読書・図書館プラン2022について、その概要をご報告させていただいたところでございます。

現在、この図書館プランに従って事業や取組を進めており、令和4年度の取組状況全体につきましては、来年度にご報告をさせていただきたいと考えております。

本日は、図書館プランの中で「検討する」と掲載していることがら、地域の生涯学習拠点としての役割検討などいくつかありますが、それらについて「図書館の在り方検討」として検討に着手しましたので、そのご報告をさせていただきます。これが議題の1点目となります。

それから、議題の2点目は、「図書（マンガ）を核とした」とありますが、こちらは図書館プランに具体的事業として掲載されているものではございません。本市のまちづくり政策として、ライブラリー、ミュージアム、そして、ビジネス展開が漫画を核として可能

かどうかというような可能性調査を本市のまちづくり政策局が主体となって実施しております。ライブラリーとございまして、図書館も関わっております。可能性調査という段階ですので、簡単なお報告にこちらはとどめさせていただきます。未定の部分も多く、今後の修正などもございますが、そういったことをご了解の上で活発なお意見をいただければと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。

●事務局（中澤運営企画課長） 本日の会議は2時間程度を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、議事に移りたいと思います。

新田会長、よろしくお願いいたします。

## 2. 議 事

●新田会長 それでは、議事を進めてまいります。

最初の議題ア「さっぽろ読書・図書館プラン2022」の推進状況についてです。

事務局から説明をお願いします。

●事務局（井上企画担当係長） 私からは議題の1番目の「さっぽろ読書・図書館プラン2022」の推進状況についてご説明いたします。

令和4年5月に策定し、6月の前回協議会の際にご報告しましたさっぽろ読書・図書館プラン2022では、図書館の役割や在り方に関する調査・研究、地域の生涯学習の場としての地区図書館に関する調査・研究、地域住民の施設活用に関するニーズの調査研究、民間活力導入の検討、図書館のあるべき施設配置についての調査・研究を行うとされており、それらを具体的に検討し、学びの拠点としての図書館の実現に向けた工程として考察する取組である在り方検討を進めています。

まず、資料の1点目の図書館の在り方検討をご覧ください。

この資料は、図書館の在り方検討を進めるとともに、この取組を本市の重要施策として第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンに反映していくため、図書館が検討している内容です。

それでは、資料に沿って説明させていただきます。

資料の左上は、さっぽろ読書・図書館プラン2022の基本理念と三つの重要な観点を説明しております。

プランでは、地域展開、変化に対応した読書環境・図書館、取組の継続・持続可能性を三つの観点として整理し、それらを踏まえ、「市民の生涯にわたる学びや創造的な活動を支える」を基本理念としています。

次の図書館の現状と展望をご覧ください。

図書館の現状については、施設の老朽化や図書購入費の減少、専門員の専門性を生かせる業務体制の確立といった問題はありますが、一方、図書・情報館をはじめとした札幌市

の図書館では、ライブラリーオブザイヤーを受賞するなど、利用者対応では高い評価を得ています。

今後の必要な展開については、次のとおりに整理しています。

さっぽろ読書・図書館プラン2022の方針を受け、図書館における人生100年時代の学びの拠点としての役割、市民のウェルネスを実現するための図書館の役割、様々な環境の変化に対応できる図書館像、図書館が行うべき地域展開の形という視点を入れ、地域展開や学びの拠点としての図書館について調査・研究を行っていきます。

目標とするイメージは「さまざまな人や情報が集まる、出会いと成長の新たな学びの空間へ」とし、新たな学びの空間を目指し、在り方検討をスタートしています。

その下の図書館の在り方検討では、在り方検討に係るスケジュールを掲載しております。

令和4年度には、市民ニーズ調査として、図書館についての市民アンケートと地区図書館に関するニーズ調査、ヒアリング調査を実施しました。調査結果につきましては後ほどご説明します。

また、今後の図書館運営と在り方検討に役立てるため、他都市の事例調査として、各都市の図書館を視察してまいりました。

それらの情報を使い、業務委託の手法も用いながら、現在、図書館の在り方について、基本設計としてまとめているところです。

令和5年度には、基本設計を基に、サービス提供や施設整備、運営手法等の考察や有識者の意見も取り入れ、実施に向けた設計を行い、今後に向けた実施方針である図書館の在り方としてまとめていく予定です。

令和6年度以降は、在り方検討の結果を踏まえ、地域展開や学びの場としての活動拠点化を推進するため、具体的な取組を実施する予定です。

なお、既に身近な生涯学習拠点としての機能の充実を目指しており、地区図書館において企画提案型事業を実施しております。各図書館の取組内容につきましては私の説明の後に時間を設けさせていただきます。

右上のウェルネスワーキンググループの取組について説明します。

次期長期戦略ビジョンでは、ユニバーサル、ウェルネス、スマートの三つをまちづくりの重要概念としており、図書館では、ウェルネスの実現に向け、「人生100年時代の学びと社会参加」をテーマに検討を進めてきました。

検討を進めている内容について説明します。

基本的な方向性につきましては「さまざまな人や情報が集まる、出会いと成長の新たな学びの空間へ」とし、これを実現する図書館づくりについて必要な視点を3点整理しております。

ウェルネスの実現として、豊かな人生に必要な情報、知識の提供、学ぶ拠点として、生涯にわたり自らの可能性を広げられる学びの拠点、地域の特性を生かすとして、各地域の魅力を生かした楽しい暮らしをつくる場所、この三つの視点をいながら、図書館の在り

方検討を進めていくこととしました。

また、検討に当たっては、感染症対策やそれに伴う市民の行動変容も踏まえ、リアルな図書館のにぎわいだけではなく、図書館のクラウド化、非来館型サービスの進展についても検討を進めてまいります。

その下のさっぽろ読書・図書館プラン2022、図書館の在り方検討を具体化し、提案する取組について説明します。

ウェルネス実現に向け、“図書館×〇〇”による図書館のリ・デザインとして、ウェルネス実現に向け、図書館に地域特性（食や文化、自然環境、施設など）を掛け合わせて、地域ごとにふさわしい館の在り方を再設計するという考えをまとめたものです。

具体的な取組の例として、プロスポーツと共同して、トークライブや実演、関連展示を行うこと、食、健康、アウトドアなど、ウェルネス関連の提案事業として、民間企業や店舗などとの連携、関連展示、プレ定年世代へのアプローチとして、就労、健康、趣味等のライフプランセミナー、ソーシャルビジネス支援として、キャリアチェンジ、副業など、自ら学ぶ機能の充実として、ICT環境、交流・学習ゾーンなどが考えられます。

これらの取組を通じて、自ら学ぶ・エンパワーメントの場、生涯学習のきっかけとして、図書館、特に地区図書館を市民に知ってもらい、ウェルネス実現に向けてつなげていきたいと考えております。

次に、在り方検討の内容について説明します。

在り方検討につきましては、本年度と来年度に集中的に行うことや専門的な知見も活用する必要があることから、一部業務委託も導入しながら進めており、受託者である丸善雄松堂株式会社より検討方針が示されましたので、ご説明いたします。

資料2の令和4年度札幌市の図書館の「将来の在り方」についての調査研究業務についてをご覧ください。

1の本調査研究の位置づけから説明させていただきます。

先ほどもご説明しましたが、札幌市の図書館の将来の在り方につきましては、持続可能な図書館サービスを見据えた図書館運営の手法など、市民アンケートや地域ニーズ調査を実施し、その結果及び札幌市が行った図書館に関する各調査結果を分析することにより、身近な学びの場の機能を充実するという観点から市民ニーズを把握するとともに、専門的知見や他都市事例等も踏まえ、札幌市の図書館の在り方、基本方針についてまとめるものです。

次の図書館の在り方に関するアンケート調査について説明します。

アンケート調査につきましては、昨年11月から、18歳以上の市民3,000人を対象に郵送によりアンケートを実施し、844人から回答を得ております。

アンケートのクロス集計につきましては現在進めているところですが、委託業者から入手したアンケートのデータを基に当部で集計しました1次集計結果については後ほど説明したいと思います。

次に、将来も持続可能な図書館サービスを見据えた図書館運営の調査研究・分析について説明します。

分析のため、市民アンケート調査のほかに、参考となる取組を行っている他都市事例の調査をしております。調査方法については、資料調査、ヒアリング調査、視察調査になります。

また、札幌市の各地区図書館及び関連施設・市民団体の配置と活動内容を調査し、潜在力を把握しております。調査方法につきましては、公開のデータの調査、ヒアリング調査、実地調査を行っております。

これらの調査と札幌市が行ったニーズ調査をはじめとする各調査結果を踏まえ、札幌市の図書館の目指すべき方向性について提案されることとなっております。

次に、資料の右側に移ります。

これは、先ほど申しあげました調査を基に札幌市の図書館の目指すべき方向性を提言するための骨格となる図になります。

さっぽろ読書・図書館プラン2022の基本理念、三つの観点、四つの基本方針を基に、「めざすべき図書館像」について、「生涯にわたり人の学びを支える」、「暮らしと仕事に役立つ」、「地域を良くする」、「もうひとつの居場所になる」を挙げております。

1の「生涯にわたり人の学びを支える」について、ブックスタートの時期にある幼少期から、学校に通い、働き、子育てをし、やがてはシニア世代になるまで、図書館が各世代の学びの拠点になれるように目指していくべきであるということです。

2の「暮らしと仕事に役立つ」ですが、生活する上で欠かせない事柄について、図書館が身近な情報拠点・相談窓口になっていくべきであるということでもあります。一部は、現在、図書・情報館で行っている取組を横展開していくようなイメージになると思います。

3の「地域を良くする」ですが、これは、地域展開の要素も含み、地域の魅力を発信し、地域活動を支援・活性化し、図書館自体が地域の魅力になれるよう目指していくべきであるということです。

4の「もうひとつの居場所になる」ですが、これは、市民アンケートでもニーズは高かったのですが、快適な施設に環境整備、行くたびに新鮮な館内、館内にカフェを設置し、居心地のよい座席を増やすことにより、立ち寄りたくなる場を提供することにより、図書館がまちの居場所になるということです。

このような取組をしていくことにより期待される効果としては、人生100年時代のウェルネスの向上、生活に必要な情報がすぐ得られる環境、地域の活力が高まり、個性化促進、知的なサードプレイスがある生活が挙げられます。

これらの要素を踏まえ、札幌市の図書館の目指すべき方向性が提案され、それを実現していくための運営手法の検討も行いつつ、次年度以降の調査研究につなげていく予定です。

次の資料の説明に移ります。

資料の3点目の札幌市の図書館の「将来の在り方」に係る市民アンケート（1次集計結

果)をご覧ください。

これは、委託業者から入手したアンケートのデータを基に当部で単純集計したのになります。

まず、アンケートの内容から説明させていただきます。

お配りした資料の最後の4ページに実際にアンケートで使用した調査票を掲載しております。

アンケートは、Q1の属性調査も含め、全9問となっており、Q2は、図書館の利用目的、Q3は、図書館のサービスのうち、利用しているサービス、充実してほしいサービス、Q4は、図書館で学びの場として充実させてほしいサービス、Q5は、図書館で参加したいイベント、Q6は、図書館を地域の課題解決の場としていくための地域の課題調査、Q7は、図書館を地域の身近な学びの場、活動の場としていくための現在行っている個人活動の調査、Q8、Q9は、今後、図書館において連携事業を開催したり、複合化していくに当たっての市民の施設利用の状況の調査になります。

次に、調査の概要について説明します。

2ページをご覧ください。

先ほどもお話ししましたが、調査対象者は住民基本台帳を基に無作為抽出した18歳以上の札幌市民3,000人で、令和4年11月9日から12月5日にかけて実施いたしました。844人から回答を得ており、回答率は28.1%となっております。

次に、調査結果について説明いたします。

Q1の属性調査ですが、年齢については60歳代からの回答が最も多く、次に40歳代となっており、実際の年齢構成とあまり変わらない回答結果を得ております。居住区につきましても、北区、東区、西区の順で回答を得ており、これも実際の構成とあまり変わりありません。職業につきましても、常勤が46.5%と最も多く、次いで、無職、短時間勤務、家事専業となっております。性別につきましても、約6割が女性からの回答となっております。

次に、Q2の図書館の利用目的ですが、「図書館は利用しない」が最も多く、全体の47%を占めており、「コロナ禍のため利用を控えている」という回答も足すと、約58%が図書館を利用していないことになります。

図書館を利用している層で最も回答が多かったものが「図書を借りる・返す」で全体の約29%、図書館を利用している層のうち、約69%となります。「館内で読書をする」、「館内で調べものをする」という回答の次に「気分転換・時間つぶし」に来ている方も多く、図書館を利用している層の約22%となっております。

次に、Q3の図書館で利用している機能・充実してほしい機能ですが、利用している機能として、「図書の検索サービス」、「おすすめ本の紹介や展示」が多くなっており、充実してほしい機能としては、「カフェスペース」、「集中できる個人席」が多くなっております。

次に、Q4の図書館を地域の身近な学びの場としていくために充実してほしいサービスですが、「Wi-Fiなどのインターネット環境」が最も多く、全体の半数近くが回答しております。次に、「開館日数・時間の延長」、「芸術や文化の様々な情報との思いがけない出会いを提供する展示」、「受験や資格取得のための参考書」の順で多くなっております。

次に、Q5の図書館で参加したいイベントです。

「芸術や文化の新しい知識を得ることができるイベント」、「趣味に関するセミナー・講演会（工作・歴史など）」、「日常生活を豊かにするイベント・セミナー（園芸・外国語など）」の順に多くなっております。

Q6のお住まいの地域の課題ですが、「高齢者介助・介護など」が最も多く、全体の4割強となっており、次に、「地域の安全・防犯」、「医療・健康増進」、「自然災害対策」、「コミュニティ問題（町内会活動など）」の順に多くなっております。

次に、Q7の現在行っている生涯学習・活動ですが、全体的に個人で活動している人が多く、個人で活動しているものとしては、「基礎運動：ウォーキング・ランニング・スイミング・マシントレーニングなど」が最も多く、次いで、「パソコン・スマホの活用」、「料理・園芸・野菜栽培・DIYなど」、「職業上必要な知識・技能の習得や資格の取得」の順に多くなっております。

教室で学んでいるものとしては、「スタジオトレーニング：エアロビクス・ヨガ・瞑想など」、「絵画・造形・写真・書道・いけ花・陶芸・クラフト・手芸など」の順に多くなっております。

グループ・サークルで活動しているものとしては、「スポーツ各種：卓球・テニス・サッカー・野球・合気道・パークゴルフなど」、「子育て・介護・まちづくり・エネルギー・人権などの問題解決のために」の順で多くなっております。

次に、Q8の図書館以外でよく利用する施設ですが、「博物館など（科学館・プラネタリウム・動物園・水族館等を含む）」、「特になし」、「美術館など（ギャラリーを含む）」の順で多くなっております。

次に、Q9のQ8で選んだ施設でよく利用する場所ですが、「体育館、トレーニングルーム」、「劇場、コンサートホール」、「展示室」、「講堂、多目的ホール、区民ホールなど」の順で多くなっております。

アンケート調査では、在り方検討の重要な参考資料とするため、現在、クロス集計を行い、様々な検討を進めているところです。

次の資料に移ります。

資料4点目の札幌市の図書館の在り方に関するニーズ調査の結果についてをご覧ください。

2ページの調査の概要をご説明いたします。

調査の目的ですが、地域の生涯学習の場としての地区図書館の調査研究を行うため、札



幌市の図書館の利用者、運営に関わる方、地域で活動される方の意見を聞き、地区図書館の活用に関するニーズを掘り起こすとともに、市民アンケートと併せ、今後の在り方検討の資料とすることを目的としております。

調査の設計及び調査方法ですが、ニーズ調査として、中央図書館、地区図書館で令和4年8月と11月に実施したご近所先生企画講座の受講者と、令和4年度の司書課程学生図書実習の実習生を対象に、資料の3枚に添付しました調査票を用いて実施しております。ご近所先生の受講者73名、司書実習生15名の合計88名から回答を得ております。ヒアリング調査についてですが、地域で活動する12団体から意見を伺っております。

ニーズ調査の結果を説明してまいります。

1枚めくっていただきまして、4ページの2の調査結果（ニーズ調査）をご覧ください。

Q1の「地区図書館を利用したことはありますか」という問いに対しては、76%が「ある」と回答しております。ただ、「ある」という回答でも、過去に数回行っただけというように極端に利用回数が少ない回答が5件ありました。

次に、Q2の地区図書館を利用しない理由につきましては、「その他」が最も多い回答となっておりますが、「本（電子書籍を含む）は購入して読む」、「行くための交通手段の問題」と「行く時間がない」が同数の回答となっております。「その他」の中には、学校図書館を利用している層やその他の図書館を利用している層も含まれています。

次のQ3の「過去1年以内に地区図書館以外に利用した公共施設はありますか」につきましては、「市役所・区役所、保健センターなど」が48件と最多となっており、次いで、「コミュニティ施設（区民センター、地区センターなど）」、「スポーツ施設（区体育館、温水プールなど）」の順で多くなっております。

次に、Q4の「地区図書館にどのような機能があれば利用したいですか」については、「セミナー・勉強会・講座など」が34件と最多となっており、次いで、「Wi-Fiなどのインターネット環境」、「蔵書検索サービスなど図書館システム」、「おすすめ本の紹介や展示」、「飲食可能など憩いのスペース」の順で多くなっております。

次のQ5の「図書館サービスや図書館の在り方を検討するにあたり何を重視すべきだと考えますか」については、「『自らの学び』を支援する体制」、「現在の利用者のニーズへの対応」、「身近な地域での交流の活性化」、「将来を見据えた市民ニーズへの対応」、「次世代（子ども）に向けた読書習慣の推進や学びの支援につながる取組み」の順で多くなっております。

次のQ6の「あなたが今、学んだり、活動したりしていることは何ですか」については、「外国語・歴史・文学などの教養を高めること」、「芸術・工芸・芸能・音楽に関すること」、「健康・スポーツに関すること」などの順で多くなっております。

次に、Q7の「地区図書館を身近な地域での学びの場として機能強化していくにあたり、どのような機能やスペースを配置すべきだと考えますか」については、「学び・教養・趣味などを深めるための場」、「本・DVDなどの貸出」、「行事・イベント」、「本など

の収集・保管」、「学び・教養・趣味などを深める相談ができる人材」の順に多くなって  
おります。

次のQ 8の「『学びの場』としての地区図書館でどのような事業に参加したいですか」  
ですが、「趣味に関するセミナーや講演会」、「老後のためのライフプランセミナー」、  
「絵本の読み聞かせ教室など、子どもと一緒に参加できる事業」、「食、健康、アウトド  
アなど健康に関連した事業者と連携した事業」の順になっております。

次のQ 9の「お住いの地域での身近な課題は何だと考えますか」ですが、「福祉・介護」、  
「防犯（安全・安心）」、「生涯学習・スキルアップ」、「子育て支援（発達支援、虐待  
防止など）」の順になっております。

次のQ 10以降は、自由記載となっております。これは、地区図書館に特徴を持たせる  
ための参考資料とさせていただきたいと思っています。

Q 10につきましては、お住まいの地域の特徴（セールスポイント）について説明して  
おります。生活のしやすさだったり、都市機能、自然、区のランドマークなど、様々な意  
見をいただいております。

Q 11の最寄りの地区図書館に特色を持たせるとしたらという質問に対しては、地域の  
特徴に応じて様々な提案をいただいております。

Q 12の「地区図書館にどのような書籍や情報があるとよいですか」という質問に対し  
ては、郷土資料、子育てに関する資料という回答が多くありました。

次に、ヒアリング調査の結果について説明いたします。

ヒアリング調査では、12の団体から様々な意見をいただきました。この報告書に記載  
したものは聞き取った内容の全てではありませんが、主立った回答を要約して説明します  
と、図書館の情報として、地域の情報や地域で活動している団体のことをもっと発信して  
いくべきだということがありました。地域のことは地域の身近な場である図書館で知るこ  
とができるようにするという事です。

また、図書館の施設スペースや機能の活性化について、カフェを設置すべき、Wi-Fi  
を設置すべき、塾のように学生や先生のOBが勉強を教えてくれればよいのではないかと  
いう意見もいただきました。

子どもの読書習慣の醸成や学習の場として活用するための様々な手法、利用者の興味を  
引くようなイベントの活用、地域展開の方法など、様々な意見をいただいております、今後の  
在り方検討に役立てていきたいと考えております。

この調査研究業務につきましては、図書館協議会の皆様の意見も参考に、さらに検討を  
進め、今年度末から来年度初めにかけて、札幌市の図書館の将来の在り方について、基本  
方針をまとめてまいります。さらには、来年度には、その基本方針を基に地域展開や地区  
図書館の活性化を見据えた札幌市の図書館の将来の在り方に関する具体的な取組について  
検討を進め、さっぽろ読書・図書館プラン2022を推進していきたいと考えております。

私からの説明は以上になります。

●事務局（木田調整担当課長） 引き続きまして、私から、地区図書館の企画提案型事業、先ほど在り方検討の説明の中で若干触れましたけれども、それでどのようなことが行われたかを皆様にご紹介したいと思います。

こちらについては事前の送付資料ではございませんで、本日、皆さんの机前にお配りしたこちらの色つきの4枚組のものに沿って説明を差し上げたいと思いますので、ご覧いただければと思います。

さっぽろ読書・図書館プラン2022におきましては図書館の地域展開を重要な柱の一つとしております。地域のニーズの把握を図りながら地域の学びの拠点としての役割を確立していく、そういったことに向けて積極的な取組の検討や実現に努めているところです。

その考え方を具体化し、地区図書館の各区の知の拠点としての位置づけを強化していくということを狙いまして、それともう一つの人生100年時代の学び直し、そして、多様な学びを支援する身近な生涯学習拠点としての機能の充実を目指し、地区図書館の企画提案型事業を実施しました。

本日は、その事例を紹介してまいりたいと考えております。

お手持ちの資料の1枚目の手稲区の曙図書館の取組「図書館へ行ってみよう！～小学生の図書館見学～」についてです。

これは、区内の小学生を対象に、図書館見学の機会に図書館活用の楽しさを伝えることで、読書習慣の促進を図るものです。

事業の内容については、まず、休館日に図書館に小学生の皆さんに来ていただき、図書館の利用方法や楽しさを児童の皆さんに伝え、図書館デビューのきっかけをつくることで子どもの読書活動の普及啓発を図ろうとしているものです。

当日は、区内で活動する読み聞かせのボランティア、「わらび」さんというボランティア団体にもご協力をいただきまして、手稲の歴史である蝗害、いわゆるバッタによる農業被害がかつてあったわけですが、これを語るバッタ塚を題材とした紙芝居が行われました。児童の皆さんは、非常にこれを興味深く聞く一面もありました。

今回の図書館見学で初めて図書館に来館した児童も多数おありまして、図書館や読書に関心を持っていただく、大変よい機会になりました。

続きまして、2枚目をご覧ください。

こちらが、清田図書館で行われました「牛乳パックでスタンドづくり～図書館内装飾講習会～」となっております。

こちらの事業には、地域の図書活動、主に学校司書や図書活動を支えている皆さんとも交流を深めるという目的も一つあり、多くの学校司書、ボランティアで活動している皆さんにも参加していただきました。コロナ禍で停滞した図書活動を活性化することが狙いとなっておりますが、あわせて、清田区役所の来庁者の皆さんにも同じ建物の中にある図書館の利用を呼びかけていくということです。

事業内容としましては、図書館活動に関わる団体や個人を対象としたブックスタンドの

作成や読書意欲を高めるポップの作成の講習会が内容となっております。いつもは見慣れた書架に来館者の気持ちを引きつける小さなアイデアを盛り込む技、あわせて、図書館の事業をどのように進めていくかという図書館の活用方法もPRできました。

続きまして、澄川図書館の「Autumn Fest～澄川図書館利用拡大促進事業～」でございます。

こちらは、地元南区にある八剣山果樹園によりますマルシェを開催し、近隣住民への図書館のPRや新規登録者を含めた来館者増加につなげていく狙いで実施されております。

当日は、マルシェに合わせ、SDGsをテーマにした記念講演、そして、子どもワークショップなどの催しも行いながら図書館をPRすることができました。この日は、ふだんの2倍近い来館者で大変にぎわいがありました。

最後に、資料の最後となります西岡図書館の取組で、「読み継がれてきた絵本の力～SDGsの種をみつけよう～」という事業です。

こちらは、長年読み継がれてきた絵本などの中から、持続可能な開発目標について考えていくきっかけになるものを見つけようということを目的に講演が行われ、絵本の展示も行われました。「ちいさいおうち」や「かぼくん」といったおなじみの絵本の中にもSDGsについて考えることのできるヒントや、絵本の奥にある世界観を見いだす取組になりますが、当日は、その絵本の中身について、講演を行った講師の方と活発に質問等のやり取りも行われました。

このほか、資料にはないのですが、図書館の改修工事に合わせて図書館のリニューアルを行い、ミニ展示をできるようなスペースをつくる事業、また、図書館クエストと題して、クエストというのは、課題や任務、そういった問題ですが、それを見せ、クリアすることで図書館の利用方法や調べ学習の方法が分かるようにする取組を行いましたほか、各地区図書館がその状況に応じて趣向を凝らした事業を実施しました。

地区図書館企画提案事業は、今年度は全ての図書館で事業を実施し、さっぽろ読書・図書館プラン2022の視点の一つである地域展開の試みとして、一定の成果を収めることができたと考えております。来年度も今年度同様に各館において工夫を凝らした事業を推進していきたいと考えております。

●新田会長 ただいまの読書・図書館プラン2022のうち、特に将来にわたる図書館の在り方に関する検討部分の今年度の取組についてを中心に説明していただきましたけれども、委員の皆さんからご意見やご質問などがございましたらお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

●原田委員 札幌市の図書館の「将来の在り方」についての調査研究業務についてお伺いいたします。

「めざすべき図書館像」の2の「暮らしと仕事に役立つ」のところですが、図書・情報館での取組を横展開とお聞きしました。これは、司書のレファレンス業務の精度を上げるというよりは、図書・情報館でたまにやられているような専門家を呼んだ相談会を開くよ

うなイメージなのでしょうか。

●新田会長 2枚目の資料の札幌市の図書館の目指すべき像の2の「暮らしと仕事に役立つ」に関し、その趣旨はどういうことですかということですが、いかがでしょうか。

●事務局（木田調整担当課長） 現在、図書・情報館につきましては、新しい図書館の形として皆さんに提案し、一定の成果を収めているところです。

図書・情報館では、暮らし、仕事、そしてアートというテーマを持った展開をしているところですが、こういったものを一つの成果とし、地区図書館でも行っていきたいと考えております。

ただ、そのためには、今、図書・情報館で行っている各種セミナーのほか、資料や情報の提供を地域に落とし込んでいき、何が必要かを考えて実際にやっていかなければなりません。

また、相談機能、レファレンス機能です。今も地区図書館には非常に優秀な専門員が配置されておりますが、司書の方たちがそういった新たなミッションを認識し、自分の相談スキルや対応力を磨いていくための一層の研修機能の強化が両輪として必要になってくると考えておまして、それも検討の中に入ってくるのかなと考えております。

●原田委員 人の助けを借りるといのは大変重要なスキルだと考えておりますし、啓蒙的な意味でもとてもよい目標だと思います。

司書のレファレンス業務の精度を上げることにこれから取り組んでいきたいということでしたが、最近問題になっている非正規の多い不安定な雇用状態ですと、育成した人材がよい待遇の自治体に流れてしまうというお話をほかの地域では伺っています。そうしたことは皆さんもお考えになっているとは思いますが、持続させるための方策として一番下にある図書館職員の育成のうちの待遇の改善もぜひ併せて考えていただけたらと思います。

●新田会長 今の図書館職員の問題に関して館長から何かございませんか。

●事務局（矢萩中央図書館長） ご指摘いただいたことはかねてから言われていることでもございますけれども、非常に大きな課題だと考えております。

やはり、専門の能力を持った職員がその能力を生かし切れずにいるという環境は市民にとっても不幸だと思っておりますので、能力を発揮できるような環境、待遇を考えていきたいと思っております。また、そういう中で持続可能な図書館づくりを進め、そのバランスを取りながらの在り方検討を進めたいと思っております。

●新田会長 ぜひ努力をしていただきたいと思っております。

ほかにいかがでしょうか。

●今野委員 札幌市の図書館の在り方に関するニーズ調査の結果についてです。

ヒアリング調査の（イ）のところに書いてあるのですが、地区のことに関しては、学校司書がそれぞれの学校にいらっしゃると思うので、そういう方たちへのヒアリングもしておいたほうがいいのではないかなと思います。

子どもたちのニーズに関し、話を聞くということも結構していると思うので、非常に参考になります。また、地域開放協議会で開放しているところに関しては地域の人も学校に来ているので、地区の図書館でこういうものがないから学校に要望してみたという話も聞けるので、せっかくニーズ調査をするのだったら、そうした方の話も聞いたほうがいいのではないかなと思います。

●事務局（木田調整担当課長） 貴重なご意見をありがとうございます。全くそのとおりかと私も考えております。

この一連の説明の中で言えばよかったのですが、我々としても学校図書館との連携については地域展開する上での核だと認識しております。地区図書館の企画提案型事業という形で地域の学びの場を発信するというをやったのですけれども、それと並行し、各地区図書館では学校図書館と協力する取組も行っております。

今年行った例をご紹介しますと、手稲区の曙2条1丁目にある曙図書館では、手稲区内に6校あり、各中学校に司書が配置されているのですけれども、その司書との交流とアンケート、意見聴取という取組をやっております。

いろいろな回答があったのですが、共通して言えるのは、学校の司書は、学校図書館で孤軍奮闘しているという実態があること、また、ちょっとしたことを相談できる相談相手が欲しいということとして、そういったことが我々の指し示す指標であると捉えておりますし、相互にもっと身近に日常から交流できるような場面をつくっていくことが必要だと考えております。

このアンケートは8月に行ったのですが、それを受けて、曙図書館では12月に各区内の図書館と絵本の活用をテーマにした交流会を行っております。また、今年に入って、2月には読み聞かせについての講師派遣をしてほしいという稲穂中学校からの要請を受けて講師派遣も行っています。このように学校図書館に協力を行ったという実績もありますが、今後は学校を所管する部局とも話し合いながら進めていきたいと考えております。

●今野委員 僕も司書と話すことがよくありまして、中央図書館や各区の図書館などと協力したいと言っているのですよ。相談したいというのもありますけれども、協力をしたい、情報を共有したいという話がよく出ます。僕はこういう場に来させていただいているので、話をできるのですが、そういう要望が非常に多いかなと思っています。

地域開放だけでも120校以上あって、情報の収集も容易ですし、多分、手間もかからないと思いますので、聞ける範囲でしっかりと情報を取ったほうがいいかなと思い、話をさせていただきました。

●新田会長 学校図書館と公共図書館との連携はいろいろな観点から重要だと思うのですが、それを持続可能なものにしていくためには、制度化といいますか、システム化といいますか、そういう場をつくるということも必要だと思います。そうしないと、担当者同士のつながりだけとなってしまう、担当者が替わる、あるいは、司書が替わると途切れてしまうということになりますので、制度化についてもぜひ考えていただければと思い

ます。

何かアイデアが既に図書館のほうではありそうなようですが、考えていることはございませんか。

●事務局（大久保地域支援係長） 昨年度から中学校の学校司書を対象とした研修を行っております。本年度も3月1日に予定しております、本年度のテーマはブックトークとなっております。

●新田会長 それは年に何回ぐらいやっつけらっしゃるのでしょうか。

●事務局（大久保地域支援係長） 今は年に1回です。

●新田会長 参加される方は全体のどのぐらいの方ですか。

●事務局（大久保地域支援係長） 今回は40名ほどですので、半分弱ぐらいです。

●新田会長 その後、フリートーキングの場は設けていらっしゃいますか。

●事務局（大久保地域支援係長） 特に設けてはいないです。

●新田会長 そういうところで本音が出てくることもあるかと思います。

●事務局（大久保地域支援係長） また、昨年6月、この講堂で学校司書の自主研修会があったのですが、その場に私と課長の浅野が参加し、司書の方とお話をいたしました。

●事務局（矢萩中央図書館長） 会長がおっしゃるように、単発で終わるのではなく、その実績を重ねることで、制度化といいますか、システム化といいますか、後につながるような形にしていきたいと私どもも考えております。

●新田会長 ほかにいかがでしょうか。

●今野委員 それは、中学校だけではなく、小学校についてもお願いします。

●新田会長 ほかにございませんか。

●原田委員 完全にポジショントークになってしまうのですが、私は小学校の開放司書をやっています。

中学校は学校司書として札幌市から非正規の職員として雇われている皆さんですので、そういったイベントも開催しやすいのかなとは思いますが、小学校の開放司書は時給100円、200円の世界で働いています。それでも、ボランティアは無償でやってくださっていただきありがとうございます、そういった感じです。

ただ、恐らく、中学よりも小学校の開放司書のほうが、ボランティア度が増している分、横のつながりが結構あって、司書部会が年に何回かあったり、同じ区内での情報共有が結構なされていたりもします。そこから情報を吸い取っていただけると活用できるものも出てくるのかなと思いますので、ぜひ交流をよろしく願いいたします。

●新田会長 ほかにいかがでしょうか。

●塚田委員 先ほどいろいろとお話をお聞きしまして、資料も見せていただきましたが、地域特性という言葉が随分出てくるなと思って拝見していました。私は、図書館だけではなく、いろいろなことを考える上でこれは非常に大事なものだと思っています。

今回の中で出てきておりますものでは、例えば、地域の特性を生かす、各地域の魅力を

生かしたというところです。また、調査の先ほどの報告の中でも地域での特徴を教えてくださいとありますし、地域特性調査云々ということもあったのですが、札幌で地域と言うとき、どの単位を言うのかなというのが一つあるわけです。

大体は区単位ということなのでしょう。でも、私は篠路に住んでいるのですが、北区の意見の中でも篠路に該当するものは出てきていないなと思っています。北区の中の都会の部分なのだなというようなこともあります。

札幌市は旧村が集まってできたという経緯もありますよね。今、その色合いは大分薄まってきているのかもしれませんが、ベースにはそうしたこともあるわけです。その上で地域特性をどう見るかとなるわけですが、地域特性というものをどう押さえていращやるのでしょうか。

区単位でもいいですし、さらに小分けしたものとするというだけでもいいのですが、どういうふうに把握しているのかというベースがなく次に進めるのかな、それでは空論にすぎなくなってしまうのかなという思いがあります。

私は北区にいますので、ここに来る機会はほとんどありません。これを調べなければというときくらいです。そのときは2階でお世話になります。いつも非常に親切に教えていただくのですが、先ほども出ました継続性ですよね。郷土の云々を考えると、正規の方で継続している方が、単数ではなく、絶対に複数必要だろうなと思っています。

先ほども正規、非正規のことが出てきましたし、前から言われていることで、図書館単体でどうこうというものではないのでしょうかけれども、札幌の文化行政の中で一番大きな問題だろうなと思っています。博物館問題もあるのですけれどもね。

自然史関係の考古のことは集めてやっているのですが、歴史・民俗系となると、資料が全て散逸してしまっています。これからやろうとしてもどうなのかなという感じもあるのですが、今やるのと20年後に始めるのとでは全然違ってきます。

図書館、そして、博物館、その他、地区ごとにいろいろな館がありますが、全体で連携した上での資料集めも含めた継続性、そして、それを基に地域特性を押さえ、そこから新たな地域づくり、集大成としての札幌のまちづくりをどう進めていくのかという視点も必要なのかなと思うのです。

まず、地域特性をこう押さえているということが分かるようなものがもしあれば、今ではなくても、もし拝見できるのであれば、私がやっていることにも生かせそうですので、ぜひ教えていただければと思います。

●新田会長 いろいろとお話がありましたけれども、地域ということで、地域の魅力を発信する、あるいは、地域の特性を生かしたと言うとき、札幌市としてはどの単位で捉えているのかについてはいかがでしょうか。

●事務局（木田調整担当課長） 地域特性ということについてですが、今、在り方検討の中で、中央館、地区館に加え、図書・情報館もえほん図書館もあるわけですが、地域性をどういった形で持たせるか、どう発揮するかは検討しているところです。



なお、我々が言っている地域特性には歴史という観点もあります。また、商業・経済、あるいは、観光・文化という地域性もあると思っています。各地区館においてどのような味つけ、バランスでやっていくかはそれぞれの図書館の腕の見せどころとなるかもしれません。

我々が期待しているところは、例えば、どこの図書館は歴史が強い、どこの図書館は健康や福祉系の情報が強いなど、そういった特徴を持たせるということです。今までは、本当に金太郎あめみたいに大した特徴がなかったのかもしれませんが、それぞれの来館者を引きつける魅力を持つことを狙っております。

そうなりますと、近いからここの図書館に、もしくは、何区の区民だからここの図書館になるとなるのではなく、私は福祉のことを知りたい、私は観光やレジャーやアウトドアのことを知りたい、だから、ここの図書館に行くとなれば、新たな来館者層を引き込む一つになるのかなということ期待をしているところです。

次に、継続性という観点ですが、これも非常に重要なものです。例えば、地域性を確立したら、それをいかに継続していくかという運営・経営面といいますか、企画的な意味での継続性もありますし、人材という面もあります。これは非常に重要な観点かと思いますが、そうした継続性をいかに確保していくか、担保していくかも在り方検討の非常に重要な核だと思っておりますので、引き続き委員の皆様からご意見をいただきたいと考えております。

●塚田委員 最後に人材の確保とありましたけれども、私は、いろいろな司書の方と接してきました、この方はここに非常に向いているのだろうなという方を見るのです。でも、3年ぐらいたつと動いてしまうのです。これはご本人がどういうふうに先を考えているのか、また、役所の体制の中でどういう位置づけなのかもあるかと思うのですけれども、この繰り返したとなかなか大変だなと思うことが多いのです。

今の話から今後に期待したいなと思っております。

●新田会長 ほかにいかがでしょうか。

●佐藤（あ）委員 私は保育士として、乳幼児を中心とした視点からお話をさせていただければと思います。

まず、乳幼児期から絵本や本に触れる機会の創出は非常に大事だと思っております。図書館というと、何となく、大きい子たちが行く、大人が行くイメージをお持ちの方たちも多い中、絵本などに小さいうちから触れてほしいなという思いで小さい頃から絵本に触れる環境づくりを目指しているところです。

今回、アンケート結果を拝見させていただきますと、子育てや子育て支援というワードが結構出てきていたかと思うのですよね。保育士としてはそこが専門分野ですので、今後、地区図書館と子育て支援で連携ができるところはないのか、今後考えていく必要があるなと感じました。

例えば、子育てに関する情報を地区図書館に置いていただくことで子育て世代が気軽に

足を運んでいただけるきっかけづくりをする、絵本も充実していただくというようなこともできるのかなと思って見ておりました。

ここで一つお願いです。

地区図書館での取組事例を報告していただきましたが、やはり、割と大きい子向けの取組が多いかなと思いました。今年度に始まったばかりの取組ですので、これからいろいろと検討していただけるかと思うのですが、小さいうちから絵本に触れるためには身近に図書館や本があるということが非常に大事だと思っています。私どもは、子育てサロンなどでも絵本の読み聞かせなどを行っていきまして、うまくタイミングが合えばいいのですが、一日中ずっと読み聞かせをやっているわけではないので、そうした機会はたくさんあったほうが良いかなと思っております。

地区図書館でえほん図書館と全く同じ取組をすることが難しいというのは重々承知していますけれども、えほん図書館で行っているような乳幼児向けの取組などを今後少しずつ多くしていただけると、子育て中の親子さんももっと地区図書館に足を向けてくれるのではないかなと思いましたので、よろしく願いいたします。

●新田会長 この点について何か方針がありましたらお願いいたします。

●事務局（井上企画担当係長） ニーズ調査などを行っても、やはり、子育てをしているお母さん方が子育ての情報に触れたり、読み聞かせをいろいろな機会ですてくれたらいいのという意見もありましたので、それらの意見も踏まえ、できるだけ乳幼児期に本に触れるのは大切なことだということは認識しておりますので、取組を進めていきたいと考えております。

●新田会長 ほかにいかがでしょうか。

●斎藤副会長 地域づくりということ、そして、司書を継続してということ、待遇をよくしてもらいたいということについては私もそう思っています。

地域のことにに関して、地域づくりということが出てきていますし、アンケート調査でも学習の機会を求めている人が結構いるということです。司書が常勤になればいいなということがある一方、この場合は社会教育主事（注1）のほうが得意なのですよね。私が司書として勤めてきた経験から言っても、学習機会の提供や地域づくりということについてはちょっと不得意なところがあります。

そして、図書館に社会教育主事と言うと、おかしい、ピント外れだと思われると思いますが、こういうニーズがあるということを考えると、図書館に社会教育主事を置くということも検討の余地があるところだなと私は思っています。

（注1：社会教育主事については、「社会教育主事任用資格取得者」または「社会教育士（称号）」を意図したご発言となっている）

●新田会長 今まであまり視点になかったようなお話ではなかったかと思えます。

●事務局（木田調整担当課長） 人事政策的な話でもあるので、今ここで責任あるお答えをすることは難しいのですけれども、斎藤副会長がおっしゃるように、それぞれの専門職

に得手としているところ、専門として力を発揮できるところがあり、協力してやっていくという視点は必要かと思えます。すぐに図書館にそういうスタッフを専任として置くのが難しくても、例えば、今こういう事業がある、もしくは、こういう課題があるという中において、学習方法について社会教育主事のご意見を賜るという機会は状況に応じてつくっていきたいなと思えます。

今日、新たな考えをお聞きし、非常に参考になりましたので、今後ともアドバイスをいただければなと思っております。

●新田会長 ほかにいかがでしょうか。

●福田委員 重要な点は、ほかの委員の方から挙げていただきましたので、私からは、ちょっと逸脱しているかもしれませんが、学びの拠点ということについてです。

郷土資料の重要性について書いてありますけれども、札幌市の公文書館はこの仲間には入っていないのでしょうか。

公文書館のことを知らない人が結構いるのです。定年退職し、札幌市や東区の歴史について調べようなんて考えている人がいて、中央図書館を利用されているのですが、話をしてみたら、公文書館があることを全然知らないのですよね。これは公文書館自体のPR不足もあると思うのですが、あそこは教育委員会の所管ではないのですか。

●事務局（木田調整担当課長） 違います。

●福田委員 それでちょっとはじかれているのですね。

ただ、生涯学習ということを考えたら、公文書館にはこんな資料があって、中央図書館の郷土資料室にはこういう資料があってというガイドみたいなものがあると、ある一定の年齢層の人にとってはすごく便利かなと思いました。縄張というわけではないのですが、それこそ、セミナーの開催などでそういう話をテーマに取り上げてでもいいのではないかなと思った次第です。

もう一つ、ウェルネスワーキングの取組のA3判の資料の右側の「ウェルネスワーキングの取組み」のところの2番目の段落にウオーカブルシティとありますよね。これは初めて聞く言葉でしたし、説明が必要なのではないかなと思うのです。これはどこから出てきた話なのですか。政府の報告書か何かですか。

言いたいことがよく分からないのです。年齢を経ても働ける場所を提供するまちのことを指しているのかなと思うのですけれども、一般の人が見たら、何だ、これはという感じがすると思うので、簡単な説明やウオーカブルシティの用語の由来などを書いていただけないでしょうか。これを公的に何かウェブなどに載せる場合もそうしたほうが親切かなと思います。

●事務局（矢萩中央図書館長） まず、1点目の公文書館の周知をもっとということについてです。

公文書館と特に中央館では2階の郷土資料担当はかなり密に連携を取っておりまして、資料のすみ分けなどについても連携を取って行っておりまして、レファレンスの際には公文

書館にある資料のご案内をしているところです。

ただ、レファレンスまで来てくださればいいのですが、そうではなく、ぱっと中央図書館にないかなと見に来た方にも公文書館の存在を分かってもらえ、なおかつ、どういう資料があるのかをご紹介できるような取組については、所管は違いますが、連携してやっていきたいと考えております。

それから、ウオーカブルシティについてです。

説明不足で大変申し訳ございません。まちづくり戦略ビジョンの検討段階で出てきたものですが、歩いて暮らせるまちづくりといった意味での言葉となります。

●新田会長 ウェルネスといたって、こんな漠然とした言葉はありませんよねと思いますね。これは、図書館だけではどうにもならないような名称問題ということでしょう。

私からも図書館に関わることでお伺いします。

検討に当たってのポイントのところに図書館のクラウド化とリアルな図書館のにぎわいとあります。リアルに加え、インターネットを利用したサービスの両方をやっていきますよということだと思のですが、クラウド化ということで、今以上のことを何か考えられているのでしょうか。

例えば、ネット予約は今でももちろんできるわけですが、それをさらに進めていくぞというような意味でクラウド化と書いてあるのかということですか。

●事務局（木田調整担当課長） 現状では、ここに書いてあるようなものについて、裾野をさらに広げていこうということですか。

電子図書については前回の図書館協議会でも来館者アンケートの結果をご説明いたしましたとおり、我々がコンテンツをまだ十分備えていないということもございますし、皆さんへのお知らせがまだ不十分なところもあるのですが、認識がまだされていないところもございます。そこで、まずはここに書いてある内容を皆さんにちゃんと知っていただくとともに、それを充実させていきたいということですか。

●新田会長 ほかにございませんか。

●佐藤（優）委員 先日、滝川市立図書館でイベントがありました。「プロフェッショナル 仕事の流儀」にも出た一万円選書で有名な砂川市のいわた書店の岩田さん、もう一人のゲストは札幌の老舗出版社の亜璃西社の井上編集長で、その2人のクロストークでした。

井上さんが事前に一万円選書のカルテと言われるオリジナルの取材シートに記入したものを公開で皆さんに見せながら、岩田さんが井上さんの書いたそのカルテを基に選書してきた本をその場でご紹介するということだったのですね。図書館と出版社と書店、本というキーワードで関わっている様々な人たちが集まり、違った膨らみが出ていまして、非常に中身の濃いイベントだったなと思っております。

会場の後ろでは、地元のT S U T A Y A滝川店の人たちが一万円選書の岩田さんの本と亜璃西社の本を参加者の方々は買っていらっしやいました。そうやって、誰もが得をするというか、幸せになるような、いい空間だったなと思います。

今、各市でいろいろな地域特性を考えたすてきな試みをやっていると思います。地域の中に閉じ籠もることをトゥーマッチにせず、よそのいいことを取り入れる視点が必要なのかな、何々区が何々区の司書の方を呼んだり、面白い会社を呼んでイベントをするなど、そういうインタークロスがあってもいいのではないかなと感じました。

もう一つ、今、「ルポ 誰が国語力を殺すのか」という本を読んでいるのですが、学校教育のニーズとして、多様性とともにも量も質も非常に高まっているのです。今回のこの調査結果を拝見し、図書館も全く同じなのだなと実感しました。

その中でも、そのニーズの最前線に立つのは人なのです。今日のお話でも何回も出ましたけれども、一人、現場に立っている司書の方の環境を少しでもよくしてほしいと思います。それは本屋の書店員と同じなのです。本屋では、大体は店長だけが正社員で、残りの優秀ないろいろな問合せに答えている、特に女性が多いのですが、そうした皆さんはアルバイトです。

昨年、札幌市内は本屋さんが結構ばたばたとなくなりました。その中で、本当にベテランでいい店長なんかも、現在、本屋の仕事には就いていないのです。あれだけの知識と経験がゼロになってしまったわけで、司書の方たちもそういうことにならないよう、札幌市としては率先して環境改善に努めていただけたらと思います。

●新田会長 繰り返し出てきた問題ですけれども、よろしいでしょうか。

ほかにこの件に関しまして何かございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

●新田会長 それでは、この議題に関しましてはここまでとします。

続きまして、議題イ「図書(マンガ)を核としたライブラリー、ミュージアム及びビジネスの展開に関する可能性調査」についてです。

事務局からご説明をお願いします。

●事務局(浅野調整担当課長) 私からは「図書(マンガ)を核としたライブラリー、ミュージアム及びビジネスの展開に関する可能性調査」についてご説明させていただきます。ただ、今回のご説明は中間報告的なものではございませんで、現在進めております調査の概要についてとなります。

札幌市役所には政策企画部という企画するセクションがあるのですが、そちらが行っているまちづくり基礎調査というものがあります。その一つとして、漫画の有効性に着目し、漫画を核としたライブラリー、ミュージアム及びビジネスが連携して持続可能な事業スキーム、あるいは、漫画を札幌のまちづくりでどう生かせるかといった実現可能性について調査をしております。

現在、図書館として、政策企画部とともにニーズ調査を、例えば、市民アンケートや有識者へのヒアリング、あるいは、漫画家による座談会等を進めておりまして、調査の結果は来年度に公表される運びです。

なお、事業化につきましては、現在、可能性を調査している段階でして、実現の有無、

内容、場所、時期等については全く未定です。

今後も、図書館協議会の皆様には、都度、情報提供させていただき、ご協力をいただきながら進めてまいりたいと思っております。

●新田会長 これから調査といいますか、可能性を探っていく段階だということですか。

●事務局（浅野調整担当課長） そのとおりでございます。

●新田会長 また、図書館だけの問題でもないということでした。

この段階で何かご質問などはございませんか。

●原田委員 私は漫画が大好きなので、分かるのです。雪ミクの成功などで、札幌市とこういったコンテンツとの親和性が高そうだという可能性も分かりますけれども、これが札幌である理由がちょっと分からないといいますか、ちょっと唐突感がある企画だなどは正直思っておりました。

特に興味のない一般市民が納得しやすい何かは、きっとまちづくり政策局の方が考えるお仕事だとは思いますが、もうちょっと何か欲しいかなと思いました。

もちろん、漫画の展示などが札幌市内でたくさん行われているのは分かりますし、SCARTSの三原順展示なども本当に楽しく、民間でもそういった企画があって、好きだから分かるのですが、好きだからこそ根拠が欲しいなと非常に感じました。

●新田会長 何かの機会にそういうことを言うていただければということかと思えます。

でも、非常に面白いコンテンツだから、市がやらないほうが良いということはないでしょうか。むしろ、民間に全部任せてしまったほうがすごくいいものができるかもしれないというのではないですかね。こういう場で言う意見としてふさわしいかどうかは別ですけどもね。

ほかにいかがでしょうか。

●斎藤副会長 単純な質問ですが、委託期間が令和5年3月31日というのと、今年度いっぱいということではよろしいですか。

●事務局（浅野調整担当課長） おっしゃるとおりです。

●斎藤副会長 既に実施しているということですか。

●事務局（浅野調整担当課長） はい。

●新田会長 来年度早々には一定の方向が出て、まちづくり政策局を中核に、その調査結果を基に実現可能性について検討するという段階ですか。

●事務局（浅野調整担当課長） まずは、調査結果を札幌市としてどう受け止めるのかというところから入っていくと思います。

●新田会長 1年や2年で方向性が定まるような問題でもなさそうだといいところですね。

●事務局（浅野調整担当課長） それは何とも分かりません。

●新田会長 ほかにございませんか。

●塚田委員 今までやっていなかった何かを始めるということで、それだけでもいいとまずは思いました。

実は、私は高校の図書館の職員もやっていたのですが、漫画はあまり入れないのですね。

でも、漫画家には興味を持ちました。実は、札幌、北海道には、非常に有名な人も含めて、それから、まだ表に出てきていない人も含め、非常にたくさん漫画家の方がいらっしゃるのですね。その方に講演や何かをお願いしようかなと思ったのですが、売れっ子は編集者が抱えており、時間がなかなか取れないという壁もありました。

貸本漫画の時代からですから、小学校のときに週刊少年マガジンや週刊少年サンデーが出た頃からいまだにそうなのですけれども、活字本を読み出したのは高校になってから、そういう感じで、漫画がどうプラスなのか、自分では分からないくらい溶け込んでしまっています。

ただ、先ほどありましたように、なぜそれを札幌でというときに、今日も地域特性からこの後のいろいろな課題も出てきていますが、札幌の何をどういうふうにするかというところで有効になるか、それ浮き上がらせるかですね。それを市民に投げかけることによって形にしていけるかですね。

例えば、広島市にまんが図書館がありましたよね。そこで十数万冊ですか。明治大学になると100万冊ぐらいです。前からやっているところを引き継いでいるかと思います。

数や何かで勝負となると、お金の問題なども出てくるので、今までなかったような特性を掘り起こすものとしてどういう可能性があるのか、その辺も含めて楽しみではあります。

●新田会長 ほかにいかがでしょうか。

●福田委員 参考になるかどうかは分かりませんが、今、青山学院で司書課程を担当している私の後輩がおりまして、文化庁から補助金が出て、日本の漫画がどの国で何語に翻訳されているかという書誌データベースをつくっているのですよね。それは今までどこもやっていなかったもので、すぐ補助金がついたそうです。

そのデータベースができたとき、図書館などにそれだけでも導入したらいいのではないのでしょうか。在住外国人の方も結構いらっしゃいますし、意外な作品が北欧の言葉で翻訳されているのです。

私は、もう10年以上前ですけれども、国際学会でフィンランドに行ったとき、フィンランドの公共図書館に漫画コーナーがありまして、「ONE PIECE」や「名探偵コナン」など、フィンランド語で書いてあるものがありました。フィンランド人は日本の漫画が好きだから、フィンランド語に翻訳せず、日本語の「漫画」と書いたコーナーをつくったと司書から聞いて、すごいんだなと思って感心してきまして、その話を学生にしたということがあります。

広島のまんが図書館も大分前に行きましたけれども、あそこは寄贈漫画で成り立っていて、玄関に入って、この漫画がないので、どなたか寄贈してくださいというリストをずらっと貼ってあるのです。今、きっとウェブでそういう変わった試みをやっていると思うのですけれどもね。

資料を収集するのも大変だし、漫画は装丁自体がソフトカバーなので、すぐ傷むということで、現在も図書館で漫画資料を保存されていると思うのですが、中抜けなどがあって

管理が大変なのです。

先の話ですけれども、面白い企画だとは思いますが、成り行きを見ていきたいなと思います。

●新田会長 ほかにございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

●新田会長 それでは、これで本日予定されていた議題は全て終了にいたします。

全体を通して、前の議題に戻ってもよろしいのですが、何かございませんか。あるいは、この場でぜひということがありましたらお願いしたいと思います。

●斎藤副会長 最初のご説明の中で、他都市の調査をしている、視察などもされているということだったのですが、どこの都市を視察されているのか、教えていただけますか。

●事務局(木田調整担当課長) 今年度の一例で申し上げますと、例えば、鹿児島市の天文館図書館、こちらは新しくできた鹿児島の市街地の本当にまちの中にできた図書館です。こちらは、再開発事業に伴って整備された図書館でして、イベントをやるコーナーがあったり、盗難防止のゲート——BDSがない状態で自由に入出りできるようなしつらえにするなど、そういった工夫が凝らされている図書館です。

それから、有名なところですが、神奈川県大和市の大和市立図書館です。シリウスという図書館なのですが、こちらはいわゆる複合施設で、うちで言うところの市民会館や子育ての支援センターみたいなところと合築して、健康と図書館を切り口に、テーマにして推進しています。非常にくつろぎやすく、健康のことも考えてもらおう、そして、市民同士のセミナーみたいなものをやったりという特徴ある取組をやっているところなどを調査しております。

そのほか、武蔵野や下関、埼玉など、それぞれ施設のつくり方や運営の仕方、取組の仕方をはじめ、セミナーや展示など、特徴あるところを調査しております。

今後とも継続する予定ですし、今はインターネットが非常に普及しているので、時間やお金をかけなくてもいろいろな情報は工夫すれば入ってくるかなと考えておりますので、いい事例をどんどん集めていきたいと考えております。

●新田会長 ニーズ調査で要求の高かった、そして、あまりお金をかけなくてもできそうなカフェというのは地区館にすぐつくりますという計画はないのですか。

●事務局(矢萩中央図書館長) 今のところはまだないです。これは検討課題の一つというところです。

あまりお金をかけずにできればいいのですが、自販機も採算性がないみたいな地区館の状況もございますので、いろいろと検討していきたいと考えております。

●新田会長 多分、ないから利用しないという循環している問題だと思うのです。そこにそういうものがあって、使い勝手がいいよねとなるとうまく回っていき、採算も取れるというようなこともあるのだらうと思いますけれども、そう簡単ではないということですかね。



ほかにございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

●新田会長 それでは、進行を事務局にお返しいたします。

### 3. 閉 会

●事務局（中澤運営企画課長） 本日は、長時間にわたり、皆様から貴重なご意見を賜りましたこと、厚くお礼申し上げます。

次回の協議会の日程ですが、こちらで別途検討させていただいて、ご連絡の上、調整させていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、第2回協議会をこれで閉会いたします。

本日は、大変ありがとうございました。

以 上